

## IAUD Newsletter vol.16 第3号(2023年6月号)

1. IAUD 創立 20 周年記念特集 未来への提言③成川匡文元理事長特別寄稿……1
2. IAUD 国際デザイン賞 2023 募集のご案内……7
3. UD 検定オンライン 中級第 19 回開催のご案内……7
4. IAUD 2023 年 6 月の予定……8



### 設立に関わられた故寛仁親王殿下の思い

IAUD 創立 20 周年特集 未来への提言③成川元理事長特別寄稿



故寛仁親王殿下(写真右)と会談する成川元理事長(2009年5月、寛仁親王殿下邸)

日本初の UD 推進団体である IAUD は、2023 年 11 月 28 日で創立 20 周年を迎えます。これも、IAUD の創立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

創立 20 周年を迎えるにあたり、2023 年度の Newsletter では「創立 20 周年記念特集 未来への提言」を連載しております。

3 回目は、2009 年から 2011 年まで理事長を務めた成川匡文元理事長(株式会社 SRA ホールディングス 取締役/IAUD 監事)による、設立当初の意義や熱意など多くの薫陶を賜った故寛仁親王殿下へのインタビューでの思い出を振り返る特別寄稿を掲載します。



故寛仁親王殿下

## 丁寧でわかりやすい殿下のお言葉

私が IAUD 理事長をお引受けしたのは 2009 年、もう 14 年も前になります。

当時はまだ IAUD は任意団体で、「第 2 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2006 in 京都」を経て、「第 3 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ」を計画中で、更に法人化を目指していた頃です。

4月に理事長になり、今後の運営等について川原啓嗣専務理事や川原久美子事務局長と色々な議論を交わしていた中で、半分冗談交じりに、「総裁であられる寛仁親王殿下(以下殿下)に UD 並びに IAUD に対する思いをお聞きする突撃インタビューをして会員の皆さんに Newsletter を通じて紹介できたらいいね」と提案したところ、数日後にフットワーク抜群の事務局から「殿下ご了解です。5月4日に行います」との連絡がありました。実現の可能性は低いと考えていたので、とても緊張しました。

しかしながら、殿下の常日頃のお言葉、活動から UD に対する非常に厚いご関心を感じていたため、会員さらには一般の方々にその生のお言葉を伝えることは有意義と考え、意を決してインタビューに臨みました。

殿下は非常に優しく、丁寧にまたわかりやすく色々なお話をして下さいました。殿下のお話の一部を、ほぼお言葉のまま以下に抜粋、ご紹介いたします。私としても非常に有意義な体験であるとともに、大切な思い出として心に残っています。皆様の UD の理念、活動の道標になれば幸いです。

※故寛仁親王殿下のお言葉は、2009 年 5 月に寛仁親王殿下邸にて行われたインタビューから抜粋しております。

故寛仁親王殿下へのインタビュー全文を掲載した IAUD Newsletter vol.2 第 3 号(2009 年 6 月号)は、[こちら](#)からご覧ください。



成川元理事長

## UD を議論する日本初の国際会議開催

殿下:川原さん(川原専務理事)は、永らく身体障害者用生活機器デザインを専門にやっていて、私は福祉をずっとやっていますから、彼との付き合いがあった。そして、「UD は身障機器のみならず、もっと大きな分野を含むということを、もっと皆さんが分かるために何かしなければ」と話していたんです。

川原さんなど 4~5 名のデザイナーが集まった時に、「UD はアメリカでもう何度か会議をやっていて、そこへ日本や諸外国から手弁当で参加している」という話を聞きました。「これから絶対 UD は世界中で大事な事柄になっていく。日本でもちゃんと取り上げていきたい」と聞いて、これは素晴らしいと感じました。

それで、彼等の希望の中の一つに、「国際会議を日本に持ってきたい」というのがありました。私は札幌オリンピックや沖縄海洋博など国際会議をたくさん運営してきたので、じゃあやってみようということになった。

川原さん達は純粋に UD が今のような形になることを望んでいたのですが、既存団体の中には、障害者のための研究を盛んに言っており、意見がまとまらないことがありました。



インタビューに応じられる殿下

なんとか横浜でやろうということになって、富士通の山本さん(元 IAUD 会長で富士通名誉会長の山本卓眞氏)に話を持って行った。それからパナソニックがすぐ続いてくれて、それがとても大きな広がりになり、結果的には思いがけなく 100 社近くの大企業が乗ってくれたわけです。

こうして、2002 年 11 月に日本初の UD をテーマにした国際会議「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」がパシフィコ横浜で開催されました。

「人間のために、一人一人のために暮らしの明日を考える一まち、もの、そして情報」をテーマに、国内外の UD 専門家による講演や分科会、さらには協賛企業とデザイン関連団体によるこれまでの UD 成果を紹介する展示会が行われ、5 日間で世界 20 개국から約 4,600 名が参加しました。



国際 UD 会議 2002 開会式の様子

## IAUD 設立のきっかけ

殿下:「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」は我々が生みの苦しみの後に大成功したわけですが、その時はまだ各社には本物の UD とは何なのか、ということは完璧には浸透していなかった。その時点では、まだある決められた枠の中の UD という段階でしたね。」

「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」終了後、国際会議支援企業は、UD の重要性をよく理解していたので、国際会議終了でそのまま連携の場が消えてしまうのはもったいないとの見解から、IAUD 創立の準備が始まりました。

そして、ちょうど 1 年後の 2003 年 11 月 28 日に、「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」の理念と成果を継承し、任意団体として IAUD が創立しました。

総裁に寛仁親王殿下、会長には山本卓眞氏をお迎えし、「UD の更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献し、人類全体の福祉向上に寄与すること」を基本理念として、国内最大の UD 推進団体としてスタートしました。

設立にあたり、殿下からは「100%の障害者はいない。100%の健常者もいない。人間は皆、身体(又は精神)のどこかに障害部分を持っており、なおかつ健常なる部分をも合わせ持っている。ユニヴァーサルデザインとは、誰でもが豊かで快適な生活を送るためのものである」とのお言葉が寄せられました。



IAUD 発会式で御挨拶される殿下

殿下:自分なりに UD の素晴らしさというものをわかっていましたから、「UD は障害者のためのものだけではなく、乳幼児から高齢者まで全ての人類のためにあるべき」と、口を酸っぱくして皆さんに説明していた。だんだん各企業が理解してくれるようになり、会社は利潤を追求する組織だから、自分達で作っていく製品もお金を払った価値があると人びとが納得できるように考えていかなければいけない、と分かり始めてくれたんですね。

「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」、そして「第 2 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2006in 京都」と続いてきて、その中で IAUD のポリシーがだんだんと確立してきたの

だと思えます。

「第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2006in 京都」は2006年10月に国立京都国際会館で開催され、29か国から約14,700名の参加がありました。

「さりげなく、大胆に～使い手と作り手の対話、実践そして実現～」をテーマに、国内外の有識者による基調講演やセッション、最新の日本のUD製品を紹介した展示会を実施しました。

殿下は開会式にご臨席されてお言葉を述べられたほか、展示会もご高覧されました。



UD2006 開会式ご臨席の殿下

## 国家的イベントに UD 導入

殿下:大きな会社であれ中小企業であれ、そこで働く人々が UD の重要性を認識しているかどうかだと思いますよ。

例えば2005年に開港した「中部国際空港」も、空港公団が障害者団体を最初の設計の段階から実行委員会の中に入れて皆で考えた。だから、あそこは全部スロープになっていて階段がほとんどない。公共施設の中にある車いす専用トイレも、あれもある種特別だ、という障害者の意見で、通常の男子用・女子用のトイレに車いすが入れるスペースをとった。すごく大きなトイレになるが、中部国際空港はそういう革新的な試みをやった。

だから、日本国中にそういった UD の重要性というのは十二分に浸透していていると思いましたが、2005年に名古屋で行われた「愛・地球博」(2005年日本国際博覧会)は、私も向こうの事務総長達に口をすっぱくして色々な事を言って、職員や係員達に何度も講義をやりました。乳児、妊婦から高齢者、あるいは外国人など何らかのハンディキャップを持った人達が万博に来た時、どうやったら素晴らしい何気ないおもてなしができるかという事をヴォランティアセンターで何十回もミーティングをやって周知徹底した。

その結果、障害者や高齢者にやり過ぎる位面倒を見る万博になってしまって、健常者がなんとなく肩身が狭い思いをしてしまう逆転現象が起きたんです。

広い所を歩くわけですから老人も車いすを使用するだろうと考えて、実行委員会は何百台という車いすを用意してくれた。そして私達のアドバイスで車いすの前輪にショックアブソーバー、これは戦車のキャタピラとかそういったものを作っているカヤバ工業という中小企業のカヤバ君というデザイナーが作ったんですが、取付けてくれました。だから車いすで歩く人達は障害者であれ高齢者であれ、みんな満足してくれたみたい。

それから私はモーターショーの親分をやってるものですから、日本自動車工業会に話をつけて、傘下の会社の低床バスを貸してくれと言ったら、あっという間に彼らはそれを理解してくれて、万博の期間中はその低床バスが縦横無尽にいろんな所から人々を運んだ。

だから障害者も喜んだかもしれないけれども、赤ちゃんや幼児を連れているお母さんや高齢者は低床バスのおかげで非常に喜んだと思えますよ。そういう意味で、歩みはゆっくりかもしれないけれども、国家的イベントにまで UD の発想が持ち込まれたってことは、デザイナー4、5人がこれからは UD で行くべきだと考えて始めた、そういった熱い思いが本当に今、現実化したっていう、私はたいしたもんだと思って見えています。

## 障害者福祉の非常識の数々

殿下:面白いのは新幹線の場合、入口のドアは車いすでそのまま通れるんですが、グリーン車の場合は座席をゆったりとってあるから真ん中の通路を車いすが通れない。何度も車いす使用者を連れてスキーに行ったりしたから分かるんですが。改札口も全然車いすが通れないから、私の護衛官達が持ち上げて通すわけ。



丁寧に色々なお話をなさる殿下

それから、プラットホームにある視覚障害者用の点字ブロックは、JRは全部プラットホームの端から何センチというところに決められて置いてあるけれど、私鉄とは位置が違っている。全国の鉄道会社で共通の点字ブロックからホームの端までの標準化を考えなければいけないはずなのに、各社独自でやっているわけです。

この間、「ざ・とど」という柏朋会(殿下が会長の福祉活動団体)の会報の中で、『障害者福祉の非常識の数々』というタイトルでシリーズものをやった。そうしたら本当に、我々が呆れ返ってしまうようなおかしい問題が出てきました。建設会社のせいなのか建設省なのか知らないけれども、新築の家の車の出入りのために車道までスロープにしたことで歩道が分断されて車いすの人が通りにくくなったことがあったらしい。その住宅の人にはいいだろうけれども、歩行者にはえらい迷惑なんですね。

また、例えば駅に車いすのことを考えてエレベータやエスカレータができたりしたけれど、愉快なのはエスカレータの所に車いすが来ると駅員が飛んで来て面倒をみてくれるんだって。ところがそれにかかりつきりになるために、エスカレータを使いたい一般の人が、その車いす一台のために通れずに階段を上がらないといけないとかね。

このように面白いことがいっぱいあるんです。我々の仲間には本当にはずかしい思いをする事があると言っています。

### 一番大事なのは啓蒙活動と実践活動

殿下:我々福祉をやっている人間の中で一番大事なのは啓蒙活動と実践活動。IAUDも実際の物の研究開発ばかりじゃなくて、こういう不便があるとか、こういう状態になってしまっているという啓蒙活動を一所懸命やるような雰囲気を作ってほしい。

コミュニケーションを一所懸命とる、説得工作をする、そういう事。自分はデザイナーだから説得することはどうも下手でと言う人がいるかもしれないけれども、障害者問題を一般の人達に分からせるというのは大変な啓蒙活動が必要なんです。

皆さんは障害者を見てしまうとそのままストレートに話しかけていいのかわからないというのが大多数でしょうから、気にしないで視診、問診、触診をしろと私はいつも言っているんです。

私が全国で言うようになったこの何十年間で、障害者を見る一般の目が随分変わったと思います。駅やホテルのエレベータの低い所に点字付きのボタンが付いたのはうれしいのだけれども、問題は一緒に乗った他の人が車いすに乗った人をなんとも言えない目で見ている。せっかく箱そのものはUDになったけれども、人の目は相変わらず昔と同じなんです。

ハード面は素晴らしくなったけれども人間の目というか考え方をもっと直していかないと本物にはならない。だからそういった意味で皆さん方も、老人であれ外人であれ障害者

であれ、誰が来ても何て事ないんだという事をもっともっと自覚するよう、UD や IAUD に関わる中で言ってほしい。

## UD の重要性を繰り返し啓蒙

殿下:(IAUD に対してメッセージとして)理事の人達为中心となって、UD の重要性を繰り返し繰り返し、皆に啓蒙活動していくということを是非お願いしたい。

やっぱり日本人は議論するのが下手だから、どうしても会議をやっても自分の意見を全部ぶつける人って少ないですよ。周りの人の顔色を見ながら会議をやっているのが多いから、何でもばんばん言って、いっそ極端な事を言えば、酒を飲みながら夜を徹してやるくらいの迫力があれば、会員獲得でも、製品を作っていく事でもどんどんできると思うんです。

だから、コミュニケーションの大切さをもっと皆さんにわかってもらいたい。IAUD もまだまだ発展途上ですから、ある程度のレベルになるまでは皆さんがしゃにむにやらないと私はだめだと思う。それを皆さんにお願いをしておきたいですね。特にデザイナー達は、作る事はうまいけれどもしゃべることが下手ですから。

インタビューの翌年 2010 年 10 月にアクトシティ浜松で開催された「第 3 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ」は、「人と地球の未来のために～持続可能な共生社会の実現に向けて」をテーマに、小中学生対象のこども UD コンテストや地雷除去機や発展途上国の人々を救うデザインを展示した特別企画展「世界を救うデザイン」を実施し、8 か国から約 14,110 名の参加を得ました。



UD2010 展示会での殿下と成川元理事長

ご臨席された殿下は開会式でお言葉を述べられ、また成川元理事長のご案内で展示会もご高覧されました。

殿下は 2012 年 6 月 6 日に薨去されました。

その年の 10 月に福岡国際会議場で開催された「第 4 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」では、「技術をどうデザインして使いこなすかは、私たち『人』にかかっている。故寛仁親王殿下のご遺訓にあるように、それは私たちが一生をかけるに値する命題である。安全・安心な社会のために、私たちの小さな力と UD の考え方が大きく貢献できる」という UD 宣言を採択しました。



UD2012 開会式の様子

その後、殿下のご命日であります 2013 年 6 月 6 日に、IAUD は一般財団法人設立登記手続きを行い、「一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会」として同年 6 月 14 日に公示され、現在に至ります。

これからも IAUD は殿下の思いをしっかりと引継ぎ、UD のさらなる普及と実現を通して、停滞する日本経済を再び活性化し、社会の健全な発展に貢献するために、また日本発の UD を広く世界に発信し、ひいては人類全体の福祉向上に寄与することを願って、活動していきます。



## 革新的な UD 活動を国際的に表彰

### IAUD 国際デザイン賞 2023 募集開始のご案内

IAUDは、一人でも多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2023」の募集を開始しました。

今回も、革新的な UD 活動や提案を応援します。第1次審査応募締め切りは7月31日(月)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD 国際デザイン賞 2023」詳細・応募は[こちら](#)をご覧ください。



オンライン開催した IAUD 国際デザイン 2022 表彰式



## 在宅で好きな時に UD 資格習得

### UD 検定オンライン 中級第 19 回開催のご案内

IAUDは「UD 検定中級第 19 回」をオンラインで開催します。

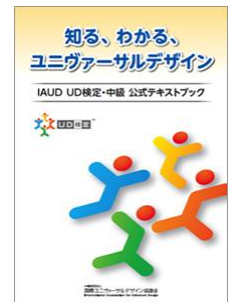
「UD 検定中級」は、力試し問題と検定試験(70分・129問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に試験をお受けください。

合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「UD 検定オンライン中級第 19 回」の申し込み受付は6月13日(火)から8月16日(木)までです。この機会に是非、ご利用ください。

※「UD 検定オンライン中級第 19 回」詳細は近日中に IAUD 公式サイトに掲載します。

※「UD 検定オンライン中級第 1 回」開催の様子を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



公式テキストブック



# IAUD 2023年6月の予定

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 15:00～ 理事会 オンライン 第19回UD検定 中級申込開始	14	15 14:50～ 衣のUDPJ @都立産業技術 研究センター	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28 20:00～ 評議員会 オンライン	29	30		

次号は2023年7月上旬発行予定  
特集：創立20周年記念特集④

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局

<http://www.iaud.net/>

e-mail: [info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)

Instagram: [iaud.info](https://www.instagram.com/iaud.info)

LinkedIn: [international association for universal design](https://www.linkedin.com/company/international-association-for-universal-design)